

令和元年度 事務事業評価シート(詳細) ※平成30年度に実施した事業を評価しています

基本情報

事務事業名	かわごえ産業フェスタ開催事業									
担当部署	産業観光部	産業振興課	事業コード	17						
所属長	粟生田 晃一			事業区分	ソフト事業					
予算事業名	商工業振興			新規・継続	継続					
予算事業コード	会計	10	款	07	項	01	目	02	事業開始年度	昭和63年

1. 事業の位置付け、関連事業及び法令による実施義務等(Plan)

第四次川越市総合計画上の位置付け(太枠内)

基本目標(章)	第5章	地域資源をいかした、にぎわいと活力にあふれるまち	法令による実施義務	義務ではない
施策	32	工業の振興	根拠となる法令	なし
取組施策	1	企業・工業団体等への支援	その他実施根拠(条例、要綱等)	かわごえ産業フェスタ実行委員会会則
関連事業	なし			

2. 事業の目的と概要(Plan)

実施主体	一部委託			
対象(誰・何を対象に)	川越市民、市内企業、市内産業経済関係団体、近隣市町民			
目的(対象をどのようにしたいか)	市内産業経済関係団体や事業者等の連携を図るとともに、市民や近隣市町の方々に市内各種産業の魅力や各団体の活動・成果を紹介し、川越市の産業振興を図ること。			
事業の概要(活動内容、実施手段・方法など)	ウェスタ川越を会場として市内企業の出展や、各種講演会を通じて市内産業の魅力や取組みを市内外の方々にPRする。屋外ステージイベントはNPO法人カワゴエ・マス・メディアへ一部委託して運営している。かわごえ産業フェスタ実行委員会幹事会は市の他、川越商工会議所、JAいるま野、協同組合川越バンテアン、(公社)小江戸川越観光協会で組織されている。			

3. 前年度に立てた計画(Plan)

かわごえ産業フェスタ実行委員会総会にて承認された内容で、ウェスタ川越にて開会式、ものづくり体験イベントや屋内ステージイベント、屋外ステージイベントの企画、会場設営、ポスター・パンフレットの内容調整、各出展者の募集・調整を行う。
---

4. 取組実績(Do)

28の企業・団体からの協賛、延べ78の出展団体の参加があり、平成30年11月10日(土)に10,000人、11日(日)に12,300人、計22,300人の市内外からの来場者があった。開会式と合わせ、川越ものづくりブランドKOEDO E-PRO認定企業の表彰式も行い、4社が認定を受けた。
---

5. 実施にかかるコスト(Do)

(単位:千円)

(1) 支出の部	28年度	29年度	30年度	元年度(見込額)	備考
人件費 A	4,109	2,205	3,706	3,706	
正規職員(1年間の従事人数)	0.55人	0.15人	0.45人	0.45人	
臨時職員(1年間の従事人数)	0.00人	0.80人	0.20人	0.20人	
事業費 B	8,000	8,000	8,000	8,000	
負担金	8,000	8,000	8,000	8,000	
総支出(A+B)	12,109	10,205	11,706	11,706	

(2) 収入の部	28年度	29年度	30年度	元年度(見込額)	備考
国庫支出金	0	0	0	0	
県支出金	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	
使用料・手数料	0	0	0	0	
その他特定財源	0	0	0	0	
一般財源	12,109	10,205	11,706	11,706	
総収入	12,109	10,205	11,706	11,706	

## 6. 指標による分析 (Check)

### (1) 活動指標

評価指標	単位	28年度	29年度	30年度	元年度(予定)	単位当たり費用 (下段は前年度)
ものづくり体験イベント開催数	件	8.0	7.0	8.0	7~8	1463.26
指標の定義・説明	子どもたちにもものづくりに親しんでもらうための体験教室開催数					1457.89
指標の定義・説明						#DIV/0!
指標の定義・説明						#DIV/0!

### (2) 成果指標

評価指標	単位	28年度	29年度	30年度	元年度目標値	将来目標値	単位当たり費用 (下段は前年度)
産業フェスタ来場者数	人	24,700.0	20,900.0	(目標) 24,000.0 (実績) 22,300.0	24,000.0	2年度 25,000.0	0.52
指標の定義・説明	開催日の来場者延べ人数						0.49
指標の定義・説明							#DIV/0!
指標の定義・説明							#DIV/0!

## 7. 評価 (Check)

項目	評価	評価コメント及び課題等
必要性	B	市が関与することが妥当であるか、時代の潮流や市民ニーズに対して目的や内容が合っているか 第4次川越市総合計画の中で工業団体等の関係団体と連携していくことが取組施策としてあり、関与することで各産業団体と開催事業を通じて連携を強める機会となっている。また人口減少による事業所の廃止が増えていくことが予想される中でもものづくりの魅力を発信していくことも求められており、市内の産業の魅力発信の機会や企業・団体の活動を紹介できる良い機会を提供している。
		施策の目標の達成に貢献しているか
有効性	A	市内産業団体の連携を深める機会となっているとともに、ものづくりの魅力を来場者に伝える機会となっている。魅力の浸透度は定量化しにくいものであり、効果測定が難しい面もある。
達成度	B	設定した活動・成果指標の目標を達成しているか 来場者数については天候に左右される要素もあるが毎年多くの方が来場しており、20,000人程の来場者数は達成できている。
効率性	C	民間委託や指定管理者制度の導入は可能か、コスト削減の余地はあるか、受益と負担(補助)の適正化が図られているか 産業振興課で行っているイベントの企画について外部委託は可能だが、試算をしたところ現状よりコストはかかる。毎年200万円ほどの繰越金を残して運営ができていますので負担金の支出を減らす余地はある。
総合評価	B	来場者アンケート結果によると「現状のままの開催が良い」という意見が多数を占めるが、工業系の企業の出展がまだ少ないという意見もあり、工業色を強めたイベントにシフトしていくか、あるいはコストや職員の事務負担を減らす観点から隔年開催や他のイベントとの合同開催も視野に入れた開催方式の見直しなどの検討も実行委員会で開始したところである。今後のアンケート結果の推移も分析し、開催内容見直しに役立てていく方針である。

## 8. 今後の方向性及び今後の取組(改善策など)(Action)

今後の方向性	改善
元年度	実行委員会を構成する他団体と昨年と同様の開催方式で運営する予定である。市内の優れた工業関係企業にも積極的に出展依頼を行っていき、より充実した内容を目指す。
2年度	事務負担の軽減を図るため、各種イベントの見直しや開催方式を検討する予定である。また、コスト面での不安要素はあるが、業務委託範囲の拡大についても検討する予定である。

## 【参考】

### (1) 比較参考値(他市での類似事業の例など)

川口市産品フェア(市予算約70,000千円)

### (2) これまでの見直しや改善等の経過

平成28年度に会場を川越総合運動公園からウェスタ川越に移し、来場者のアクセス性向上に寄与した。